

ボゴール宮殿での晩餐会

安倍晋三総理に同行し、2017（平成29）年1月12日はフィリピンのマラカニアン宮殿、15日はインドネシアのボゴール宮殿での晩餐会に民間人の私が参加できたことは光栄だった。ジャカルタは交通渋滞が激しく、泊まったホテルからボゴール宮殿までは通常2時間近くかかるが、この日は高速道路を封鎖し、パトカーが先導してくれたお陰で、35分で到着できた。

夕刻前に安倍総理とジョコ・ウィド大統領による首脳会談が行われた。引き続き、参加した27人の民間人から7人が選ばれ、大統領閣下や大臣に発表の機会が与えられた。そこで私が発表した内容を要約すると、

「この度の会合で当社を紹介させて

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 25



安倍総理（左）、ジョコ大統領（右）と

賃金とともに生産性も上げる

いただく機会をいただき感謝していただきます。順送り金型製作を得意としています。当社は2013年、当地の財閥、ニュー・アルマダ・ジャヤ社と合併会社をアカシ市のタンパンに設立し、速無人で打ち抜くことができます。50年余り順送り金型製作に特化したこと

内容と考えていたのだろうか。どの部分に興味を持っていたのかを知りたかったが、それを問う機会はなかった。なぜ私だけに拍手をされたのかは分からない。

で、無類の技術と経験を有しています。この技術を当地に移転したことで、既に多くの顧客から受注をいただいています。インドネシアでは近年自動車の生産が増加しています。年々賃金が大きく上昇している昨今、品質とコストで競争力のある順送り金型を広めることで、インドネシア自動車産業の競争力向上に貢献したいと考えています。驚いたことに、私の斜め左に座っていた大統領と2人の大臣が静かに拍手をしてくれた。製造業の堅苦しい発表が間違っていないだろう。

インドネシアはアセアン諸国の中でも労働組合が最も強いといわれ、5年間で賃金が約2倍になった。彼らは給与を上げれば先進国になれると思っているのであろう。私は昨年10月に東京で、インドネシア工業省の大臣に「賃金を上げると同時に生産性を上げなくてはライバル国に価格で勝てない」と申し上げた。既に合理化が進んでいるタイと比較して、車やバイクが割高である数字をインドネシア政府は認識をしている。そんな理由から日本の金型技術に期待したと想像するが、あな